

なんとしても活力取り戻す

誇りを持ってはばたこう

5団体合同賀詞交歓会

商品先物取引業界の平成19年賀詞交歓会が1月4日、在京5団体（東京穀物商品取引所、東京工業品取引所、日本商品先物取引協会、日本商品先物振興協会、日本商品委託者保護基金）合同で東京・丸の内の東京會館で開かれた。主務省、商品取引員、関係団体、報道関係者など約660名が出席し、新年の覚悟を新たにしました。

＝知恵・工夫を結集

主権者代表と主務省代表の挨拶主旨は次の通り。
南學政明・東工取理事長
昨年は世界的な盛況をよそに国内の商品先物取引を前年に比べ大幅に減りました。国内に7つあった商品取引所は1月1日には4つに減り、業界の再編成が目立った年でした。

厳しい状況は今年も続くでしょうが、わが国経済にとっても、なんとしても市場の活力を取り戻す必要があります。そのためには、まず、取引所が魅力ある商品を上場するのを含め、利便性と信頼性の向上、連携による効率的な広報活動などあらゆる知恵と努力を結集して取り組まなければなりません。

また、全力で委託者保護に努めるとともに、新しいビジネスモデルも構築し、経営環境の変化に的確に対応していくことが求められています。ここにいらつしやるみなさんは、過去に何度もあった危機を乗り越えてこられた方々です。現在の直面する困難も見事に克服していかれるでしょう。また、主務省は業界の育成振興に努めていただきます。

＝新生商品先物市場元年

経済産業省・松井英夫商務流通審議官 商品先物の取引金額の減少に危機感が強まっていますが、明るい兆しも出ています。海外からの外資系や、証券会社、IT関連企業などが市場に参入してきています。これは魅力があつて発展性のある市場であることの証左でしょう。

一方で、消費者保護強化の動きは大きな価値観としてますます加速されていくでしょう。業界の皆様にとっては委託者保護がますます大きな課題になってきます。これにしっかりと対応できれば業界は発展していくと信じています。

今年が新生商品先物市場元年と位置付けたい。知恵



鏡開きして乾杯

清算機構のあるべき方向検討

先物協会制度政策委員会

先物協会の制度政策委員会は12月20日の同委員会で、「清算機構のあるべき方向について」（骨太方針案）検討を続けていく方針を決めた。

わが国の商品先物市場が社会的にも国際的にも信頼性を向上させ、内外から投資先として選択されるには、日本商品清算機構（JCCH）がその機能を十分に

に発揮できるようにすることが不可欠だか、関係者の間では、取引所、商品取引員との関係、資金、システムなどの点で「あるべき姿」にもっていくには実際上、極めて難しい面がある」との見方が強い。

しかし、一歩でも二歩でも前進するため、①総合的清算機構とすること②清算参加者中心の株式構成とす



賀詞交歓会風景

と力を一堂に集め、公正で透明な市場にして、明るく元気で国民に親しまれる業界になってほしい。今年は飛躍のための助走の年でしょう。

今年も一部改正される改正商取法の厳正な執行に努めるのは当然ですが、公正で透明な市場振興について経産省は全力で支援してい

価格発信の重要さ増す

在京4団体記者懇談会

商品先物取引業界の在京4団体（全国商品取引所連合会、日本商品先物取引協会、日本商品先物振興協会、日本商品委託者保護基金）と一般紙・業界専門紙の業界担当者との第25回記者懇談会が12月6日、東穀取1階のホールで開催された。

幹事の全商連の森實孝郎会長は、「大変に悪い年だった。お世辞にもパフォーマンスがよかったとはいえない。勧誘規制の強化、財務体質の強化等々、難しい局面に對峙しておられるが、着実に対応して、商品取引員は脱皮を図っておられる。取引所も2007年は7つから4つに減りますが、みなさんと一緒になっ

トラリアは100年振りの干ばつに見舞われて小麦生産が半分にりましたが、地球規模の異常気象は各地でみられます。日本のコメの平年作も見直しせざるを得ない状況です。

サトウキビ、とうもろこしなどから作るエタノールは原油高騰を機に注目をあび、ガソリンに混ぜて燃料として使われます。これまで口に入っていたものの用途が大変化します。穀物の需給と価格見通しは難しくなるばかりです。

そのため、商品先物市場が持つヘッジ機能の重要性が一段と高まります。その機会をつかまえて当業者の期待にこたえて、上手に對処していただきたい。農水省としても皆様のためにできることは何でもやります。ただし、ルールがあつて公正で透明な市場であり、委託者がしっかりと保護されているのが基本条件です。顧客と資金を集め、一歩一

ること③リスク管理体制の充実を図ること――などに

て取引所もいろいろなことを試み、07年を飛躍の年にするため努力していきたい」と力強く抱負を述べた。

これにこたえて、日本経済新聞の小山隆司記者は、「業界は激動の年を迎え、変化のピッチの速さに驚いています。しかし、日経130年の歴史をみるまでもなく、公正な価格発信の重要さは今も増すばかりです。日本の世界に対する価格発信の場として業界と協力して機能していきたい」と目標を掲げた。

懇親会出席者約120名、業界の行方を案じながら、話の輪が広がり、弾んだ。

歩前進していただく。何か要望があれば応えるようにします。

中締めで加藤雅一・東工取先物市場振興協会代表幹事は、「信頼性の確保を目指して、関係団体は心を一つにして現実的な結果を求めて活動していきます。今年の年末には明るく元気な顔で集まりたい」と述べた。

JCCH

やや減少にとどまる

12月末の預託証拠金

クリアリングハウスの日本商品清算機構（JCCH）へ預託される全国5商品取引所の取引に関する12月末の預託証拠金残高は、約4,032億円。06年4月が最高額で、高額は12月の05年10月の約4,040億円に比べて、約4、032億

月末証拠金計		預託証拠金	
2005年	12月	2006年	12月
	474,042		503,332
			469,313
			496,838
			541,845
			515,359
			439,564
			461,590
			435,922
			428,863
			417,978
			416,225
			403,297

全国商品取引所出来高

東工取の年間出来高は前年比増

2006年12月の全国商品取引所の出来高は前年同月比41%減。出来高1位は依然、金。前月2位の白金が5位となり、前年同月比2.9%増のNon-GMO大豆（東穀）が2位、ゴム（東工取）が3位。前年同月に比べて増えたのはこの2品目と、とうもろこし（東穀）だけだった。

取引所別の06年年間出来高では、東工取のみが前年比増を達成した。全体では前年比18.1減。なお、この順位表の品目は前号掲載から福岡商品取引所のNon-GMO大豆、今号掲載から同取引所の精糖がなくなり、現在40品目となっている。

商品別・取引所別出来高順位表（単位：枚・%、平成18年12月）

順位	商品名	取引所名	出来高	平成17年12月出来高	前年同月比	前年同月順位	前年同月比順位の上下
1	金	東工取	988,547	3,260,080	30.3	①	→
2	Non-GMO大豆	東穀取	917,783	891,735	102.9	④	↗
3	ゴム	東工取	775,403	720,076	107.6	⑤	↗
4	ガソリン	〃	734,970	1,180,441	62.2	②	↘
5	白金	〃	719,597	1,153,625	62.3	③	↘
6	とうもろこし	東穀取	438,945	360,178	121.8	⑨	↗
7	灯油	中部取	344,091	578,155	59.5	⑥	↘
8	ガソリン	〃	341,359	520,918	65.5	⑧	→
9	灯油	東工取	269,466	548,301	49.1	⑦	↘
10	原油	〃	122,797	153,928	79.7	⑪	↗
11	一般大豆	東穀取	118,283	132,690	89.1	⑫	↗
12	アラビカコーヒー生豆	〃	98,280	191,978	51.1	⑩	↘
13	銀	東工取	61,595	117,777	52.2	⑭	↗
14	粗糖	東穀取	35,842	121,689	29.4	⑬	↘
15	小豆	〃	34,629	80,819	42.8	⑮	→
16	ゴム（RSS3）	大阪取	21,218	45,613	46.5	⑰	↗
17	ゴム指数	〃	13,938	23,489	59.3	⑳	↗
18	パラジウム	東工取	12,648	75,870	16.6	⑯	↘
19	アルミニウム	〃	9,446	30,240	31.2	⑱	↘
20	ロブスター生豆	東穀取	8,030	29,004	27.6	⑲	↘
21	とうもろこし	関西取	7,814	24,060	32.4	㉑	↘
22	コーヒー指数	〃	2,749	11,306	24.3	㉒	↗
23	アルミニウム	大阪取	1,951	18,291	10.6	㉓	↘
24	ゴム（TSR20）	〃	1,280	4,980	25.7	㉔	↗
25	鶏卵	中部取	873	2,068	42.2	㉕	↗
26	冷凍えび	関西取	835	17,555	4.7	㉖	↘
27	国際穀物等指数	〃	747	1,101	67.8	㉗	↗
28	軽油	中部取	735	748	98.2	㉘	↗
29	ニッケル	大阪取	669	1,487	44.9	㉙	↗
30	Non-GMO大豆	関西取	574	753	76.2	㉚	↗
31	鉄スクラップ	中部取	500	9,514	5.2	㉛	↘
32	粗糖	関西取	366	631	58.0	㉜	↗
33	小豆	〃	364	736	49.4	㉝	↗
34	生糸	東穀取	302	4,541	6.6	㉞	↘
35	大豆ミール	関西取	264	735	35.9	㉟	↗
36	プロイラー	〃	247	522	47.3	㊱	↗
37	大豆ミール	東穀取	246	290	84.8	㊲	↗
38	野菜	〃	245	4,265	5.7	㊳	↘
39	精糖	〃	238	238	100.0	㊴	↗
39	精糖	関西取	238	238	100.0	㊵	↗
	合計		6,088,104	10,323,079	59.0		↘

取引所別出来高（オプション取引除く）（単位：枚・%）

取引所	平成18年12月(A)	前年同月計(B)	(A)/(B)	平成18年1～12月(C)	前年同期累計(D)	(C)/(D)
東工取	3,694,469	7,240,339	51.0	63,672,011	61,780,446	103.0
東穀取	1,652,823	1,817,716	90.9	19,116,748	25,957,307	73.6
中部取	687,558	1,111,403	61.8	9,019,416	21,949,566	41.0
大阪取	39,056	93,860	41.6	616,272	1,602,257	38.4
関西取	14,198	59,761	23.7	315,501	1,825,806	17.2
合計	6,088,104	10,323,079	59.0	92,739,948	113,115,382	81.9

〔社〕全国商品取引所連合会調べ